



前橋市大手町 3-1-10
群馬高教組
027-231-2784
ghtu@educas.jp
http://www.ghtu.org/

あけましておめでとございます

群馬高教組

執行委員長 水田福夫



あけましておめでとございます。今年がみなさんにとりまして実りある良い年になりますよう御祈念申し上げます。

夫婦デュオ・ハンバートハンバートの歌う朝ドラ「ばけばけ」の主題歌はご存じですか。新年早々ですが、あまりおめでたくない歌詞に妙に共感しています。

職場の状況はどうでしょう。相変わらずの多忙化、生徒指導や保護者対応に苦慮する状況などまさに「毎日難儀なことばかり」。

社会的には高市首相の国会での「台湾有事」に関しての答弁に発する日中関係の悪化があります。年明けですぐにはトランプ政権によるベネズエラへの武力攻撃が起きました。自国にとって都合の悪い政権だからといって、まさか一国の大統領を他国が拘束するなどということが許されて良いのでしょうか。明確な主権侵害、国際法違反です。これではウクライナ侵攻をすすめるロシアをはじめ軍事力をほこる覇権主義の国をアメリカが批判できるでしょうか。まさにあからさまな自国優先主義です。これに対して「法の支配」や「力による現状の変更は認めない」と日頃主張している日本政府はアメリカに対しては相変わらずの追随外交で、明確に批判することを避けています。日本社会の右傾化も大いに懸念されます。「日に日に世界が悪くなる」と思うところですよ。

「ばけばけ」の主題歌は全体を通して、ペースとユーモアが感じられますが、こういう「日に日に世界が悪くなる」時だからこそ職場も社会も世界も「良くしていく」主体的な行動が求められます。しかし、一人では多くのことは出来ません。一人での頑張りではむしろ精神的にも身体的にも疲弊してしまいます。職場では病休や休職、退職が相次いでいる状況です。朝ドラの主人公なら「難儀なこと」に夫や家族、周囲の人たちと助け合っていくのが、私たちもやはり支え合い、協力し合うことを大切にしてください。管理主義や新自由主義的分断を乗り越えて、民主的に話し合え手を取り合える、生き生きとやりがいのある職場をつくり、よりよい社会を実現していきましょう。本年もともに頑張りましょう。よろしくお願ひします。



2026新春対談

1年経って、何となく全体像が見えてきたかなという感じですよ。

〔神保書記長（以下神）〕1年間、はじめて執行委員として活動してみても、今感じること何ですか？

〔武執行委員（以下武）〕そうですね。何より、わからないことだらけの中であつという間に1年が経っちゃったということですかね。執行委員になるまでは交渉に参加したこともないくらいでしたので。今でもわからないことばかりですが、1年経って、何となく全体像が見えてきたかなという感じですよ。そうしたら今度は、「もつとこうすれば良かったのでは？」「もつと自分に知識があれば…」と悔しい思いが湧いてきました。次はもつと上手く活動したいですね。神保さんがはじめて執行委員をした1年間はどうでしたか？



神保書記長（左）と武執行委員（右）が組合活動を語りつくす！

〔神〕当時は高教組主催の「スキーのつどい」があり、それに参加したことがきっかけで組合に加入しました。二年連続参加したことがきっかけで、当時の書記長から「福対部長が退職になるのでやってくれないか」と言われ、執行委員という役割はさておき引き受けたんですよ。執行委員会のある火曜日の夜は趣味でやっている合唱の練習日だったので、ほとんど執行委員会には出ていませんでした。





でも、県職連交渉のとき、経験だからというところでいきなり高教組の腕章を渡されて総務部長交渉のあの狭い部屋に入ったんです。こうやって賃金とか休暇が決まってくのかと、感慨にふけた記憶がありますね。すみません、これくらいしか思い出せなくて。あ、そうだ、この年は青年部長もやりましたよ。1年間だけでしたけど。

交渉の場の空気感は、大人になってからは中々味わえない雰囲気でしたね

【武】確かに、交渉の場の空気感は、大人になってからは中々味わえない雰囲気でしたね。青年部長はどうして1年間だけだったんですか？

【神】実は私が青年部長を引き受けたのは39歳のときでした。青年組合員は40歳になる年までなので、つまり、そのタイミングでしか青年部長はできなかったんです。といっても、積極的にやりたかったということではなく、前任の小川さんから引き継ぐ人がいないという状況の中で、やはりバトンをつながなければいけない思いがあったからですね。そういう意味では、武さんも執行委員というバトンを受け取ってくれたということと同じだと思います。

【武】そのバトンを絶やさないよう、来年度も執行委員として立候補したいと思いますが、アドバイザーなどはありますか？

【神】さきほど言ったように、始めはほぼ福対の仕事だけで、会議や交渉はほどほどにしか出ていませんでした。だから最初の年は執行委員として得られたものはあまりなかったと思います。武さんなら今年度の経験を今後にかかしていけるから大丈夫ですよ。逆に武さんに質問。組合の活動で大切なことって何だと思えますか？

組合活動を通して、教員という仕事に対する解像度がぐんと上がりました

【武】難しい質問ですね(笑) んー、色々とおあるけれども今の自分が強いて言うなら、「知る」ことと「できる」ことをするの二つかなと。組合活動を通して、教員という仕事に対する解像度がぐんと上がりましたし、労働環境が組合のおかげで良くなっているということも改めて「知る」ことができました。意外と身の回りに組合員がいて、どんな活動をしているのかということも「知る」ことができたのも、職場以外の交流に繋がりが、良かったですね。二つ目の「できる」ことをするというのは、裏返せば無理をしないということ。やっぱり教員の仕事は大変ですけど楽しいので、自分の中でのしたいこととしての優先順位は高



いです。その仕事の部分が例えば組合活動で一杯一杯になってしまふのは勿体無いし、本末転倒かなと。プライベートの時間も大事ですしね。そういう意味で「できる」ことをする。それが今は執行委員としての活動ですし、もっとできることが小さくなったら「署名する」とか「アンケートに答える」とかかもしれないです。時と場合によっては、「お金を出す」だけとかかもしれません(笑)。それでも何でも良いので、自分の仕事の未来のために「できる」ことをすることは続けたいですね。神保さんは何が大切だと思いますか？

やはり、楽しみながらやることでしょね。「あせらず 無理せず ゆっくりと」

【神】やはり、楽しみながらやることでしょね。私は青年部の活動や全教の行事には積極的に参加していたので、そこで得られたものが今の支えになっています。楽しんで組合活動をするのがいいのかなと思います。そうそう、青年部で活動していた頃、スローガンは「あせらず 無理せず ゆっくりと」でした。無理をしないって大事ですよ。それを感じている武さんならきっと楽しめますよ。今日は対談ありがとうございました。



確定報告学習会開催 (12/2,3,10) 太田、渋川、前橋



12/10教育会館にて

確定交渉結果を報告・説明しつつ、賃金や休暇、待遇が決まってく過程と私たちの権利について学習・交流する会を三会場で開催しました。

以前は執行部が分担して各支部に赴いてこのような会を実施していましたが、コロナ禍による会合の自粛や組合員と執行部役員の減少などにより開催できない状況が続いてきました。しかし、組合活動の中核となる確定交渉の結果やその内容を組合員同士で共有し、それについて交流する場がないことは組合の意義を感じる機会の喪失に他なりません。そこで、集まる人がたとえ少なくてもやってみようということになりました。でも以前のようにすべての支部で行うにはそれを担う役員の数が足りないこと、学校現場の多忙化が進む中で人を集めたり場所を準備したりする支部の負担も大きいことから、まずは実施可能な支部に声をかけるところから始めました。その結果、まずは呂楽・桐生支部が太田市民会館で、その後渋川支部が渋川勤労福祉会館で実施することが決まりました。さらに、前橋・高崎に勤務する組合員に声をかけたところ、教育会館でも実施することになりました。

三会場での一般組合員（本部以外）の参加者は計十人と少ない人数ではありませんが、すべての会場でたくさん質問が出され、制度や権利に対する理解を深めるとともに充実した時間を共有することができました。

2026県民春闘討論集会 (1/12)

全体会 講演会

〈対話と学びあいで仲間を増やして〉
講師：布施恵輔氏

1月12日（月・祝）まえばし福祉会館で「県民春闘討論集会」が開催されました。昨年に引き続き午前中に分科会、午後全体会という形態でのべ83人の参加がありました。

午前は①措置要求の実践報告、②労組のバージョンアップ、③賃金底上げ、④青年交流をテーマに4つの分科会に分かれ、参加者同士の交流が図られました。

全体会は、あいさつ、春闘方針提案に続き、加盟単組からの報告、さらには午前の分科会報告後、休憩を挟み「対話と学びあいで仲間を増やして要求実現する26春闘めぐし」と題し全労連事務局次長、布施恵輔さんの講演会でした。以下はその概要です。

対話と学びあひについて、従来の活動実践は全労連提起を具体化するための議論だった。職場での議論を持ち寄りボトムアップ型の集会では700名参加した。対話と学びあひをどう職場で活かすか？力持ちの活動家が減少する中でどうやって職場の仲間から力を引き出すか？コロナによる分断を乗り越えてどう再生できるのか？レバカレ実践でもグラウンドルール作り「約束事」は大切。

情勢では賃金国際比較でもひどい状態が未だ継続。高市政権で円安加速158円には溜息。輸入品、海外交流で不利。パスポート所有率も低下。参政党に持ってかれてしまう。高齢者の就業率断トツ世界一の61%。

賃上げ産業別推移、医療だけが2024年比下降。最賃は3月実施（未だ1000円以下）は全国でも秋田と群馬だけ。

アメリカの対応には今までとやっつてることとあまりに違い過ぎて言葉がない。理由

の麻薬も石油に転化。ベネズエラ大統領の逮捕は国際法違反と批判できなければ大変。ロシア、中国の侵略も許容されてしまう。国連諸機関からの米脱退も懸念。

国内に比べ低い高市総理の評価。むき出しの資本主義が壊れはじめている。国内外で敵を作り支持者を囲うトランプ戦略。経済と民主主義が壊れていく米。それに追従する高市政権という構図。労働分配率は過去最低。実質賃金も1ヶ月連続マイナス。

対話を促進する方法は、グラウンドルールとリスベクトに加えて、相槌、頷き、繰返し、アイコンタクト。追い越さない、一緒に考え発見する姿勢が重要。

埼玉のアニメ制作会社（ちびまるこちゃん、忍たま乱太郎）で賃上げ・残業代要求従業員を解雇しようとした社長との団交配信で労組拡大ストーリー。

京都の病院でフロアをデモ行進する活動や学生時代の要求とりまとめの経験。生まれながらのオルガナイザーもいるが、なれる人はもっと多く、必要なのは働きかけとトレーニング。組織化委員会から最後まで加入しない病棟へのアプローチ例。オンコール反対要求を核にアンチオルガナイザーを取り込んだ実践など、スライドにまとめられたポイントに関する詳しい実例を挟みながら一気に話してくれました。



対話の重要性を語る布施氏

★春闘討論集会 各分科会の様子

第二分科会

労働組合のバージョンアップ

参加者は20名で、最初の10分間は全員で「基礎クエスチョン」にチャレンジしました。12項目の質問が書かれた紙が配付され、各自で黙々と回答しました。労働法規に関するものがほとんどで、意外と知らないこと、理解が不十分なことを改めて実感しました。

次に2班に分かれて「組合のバージョンアップ」について交流が行われました。発言の一部は以下の通りです。
 ・コロナ禍で月に3日出勤するだけという状況が続いたことで対話をする機会が失われ、現在もその影響を受けている（組合活動の停滞）。
 ・成果主義により競争させられる職場になりつつある。今まで以上に、一人ひとりが繋がるのが大切だ。
 ・組合のことを知らないという若者が増えてきている。まずは知ってもらうことから始めないといけない。



26春闘方針の提案を行う
小野里事務局長

第三分科会

賃金の底上げを考える

参加者18名で4名からリード発言がありました。

非正規・会年、保育、医療現場からのリード発言に続き、参加者の質問、意見交換が行われました。以下は保育・医療現場の概要報告です。

【保育】卒園式直前の団交でようやくベースアップ獲得。ストライキ権確立の学習会が大切。それでもコロナ以降学習会が減少しストライキ権の重要性伝えられていない。ストライキ権の確立がないと要求も甘くなってしまう。未投票者増加が課題。

【医療】医療費三割負担で経費一万円なら、七割は医療機関が審査支払機関に請求する。国が定める診療報酬で細かく料金設定され、医療機関の収入を増やすには患者数の増加または診療報酬の引き上げ以外にない。2年に1度改定される診療報酬も10年以上も実質マイナス改定。全国の病院で赤字経営増え公立の90%が赤字と言われている。民間で赤字の場合は人件費削減も。

改定時期（発行日）の関係で秋田と群馬だけが未だに最賃千円を切っている異例事態の中ですが「賃上げに向けて現状を変えていかないと」と意思統一しました。

EVENTS

高教組行事情報

【ぐんま教育のつどい2026】

日程 2026年2月11日（水祝）13:00～16:00
受付12時半～

場所 群馬県勤労福祉センター→→→

内容 高校共学化について考えます。坂本祐子氏による講演、参加者意見交流も行います。参加費無料。



ぐんま教育のつどい2026
 -ぐんまの公立高校は、-
 共学？別学？
 2.11日 13:00-16:00
 (受付12:30～)
 会場：群馬県勤労福祉センター

高教組 SNS始めました！ぜひフォローお願いします！

高教組 Instagram

公式X (旧Twitter)



全教共済

給付申請・資料請求・お問合わせは
群馬県高校共済会
027-231-2784まで！

教職員のみなさんに選ばれて35年！

お忘れなですか？



(萩原)

【ときどき編集後記】
 選管が招集され執行部役員選挙が始まっています。2月投票に向け立候補者も出揃いました。久しぶりの執行部増員で補強されます。徐々に若返りを図りたいところですが、「急いで仕事をし損ずる」と辛抱強く待つ姿勢で働きかけています。さて2月11日に開催される「ぐんま教育のつどい」のご案内です。この20年間で統廃合されてきた経緯を振り返りながら県内公立高校の共学化について意見を交換したいと思っております。集会後の懇親会も予定していますのでぜひ足を運んでください。紙面が充実するあまり不定期連載となっている編集後記ですが、今年もよろしくお願ひします。